

神楽通信

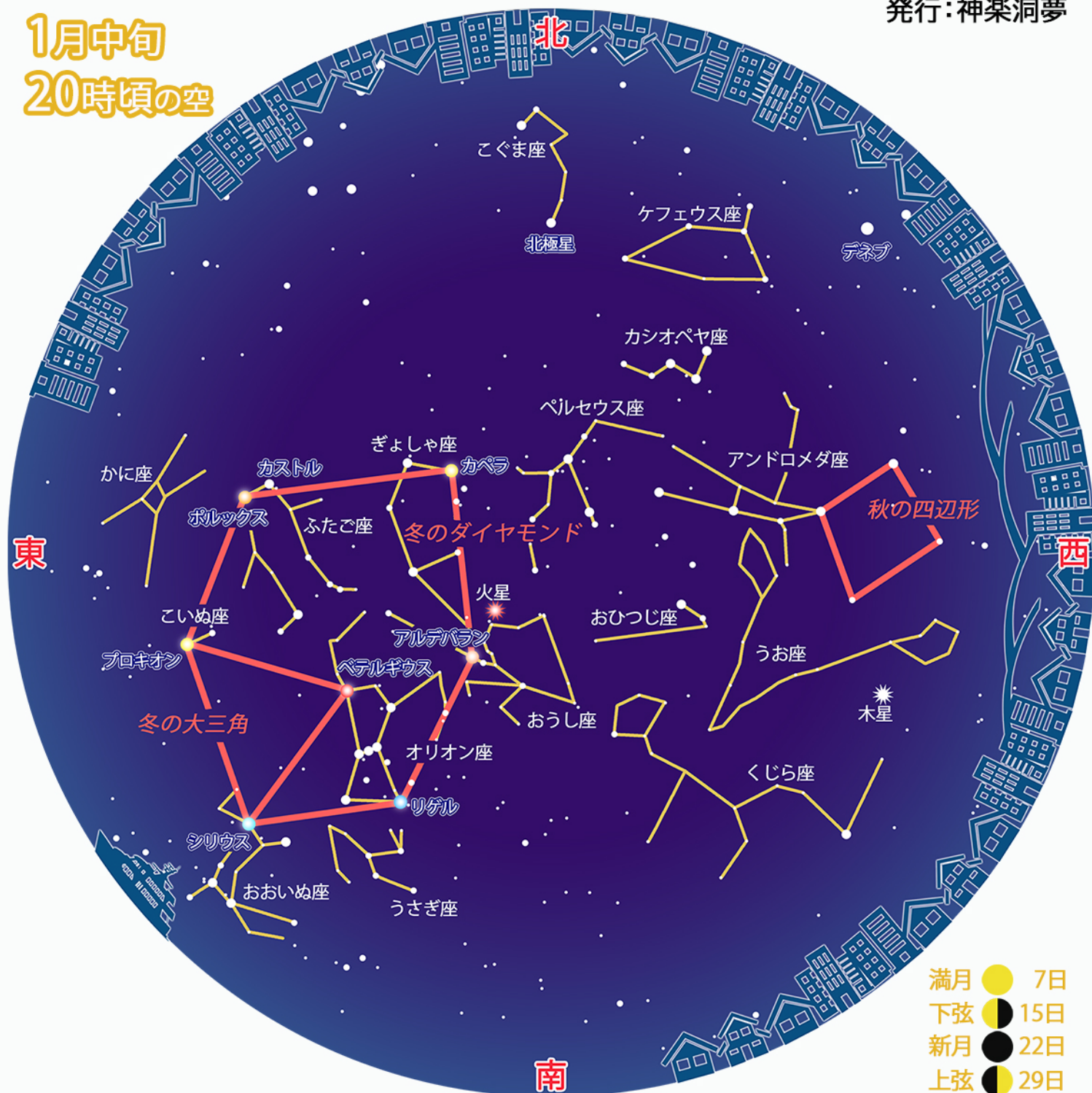
No.83

2023年

1月号

発行:神楽洞夢

1月中旬
20時頃の空



満月 ● 7日
下弦 ● 15日
新月 ● 22日
上弦 ● 29日

あけましておめでとうございます。2023年がはじまり、今が1年で最も寒い時期ですが、夜空には七つの1等星が輝いていて、とても華やかな様子です。

そんな1等星のうち、オリオン座のベテルギウスを除く六つの星を結ぶと、大きな六角形が浮かび上がります。冬のダイヤモンドです。これらの1等星は街中でも見ることができる星ばかりですから、ぜひ夜空を見上げてみてください！

“源氏星”と“平家星”

この時季、南の空には冬を代表するオリオン座が昇ってきます。オリオン座は星座の中でも人気のある星座のひとつで、すぐに見つけることができます。

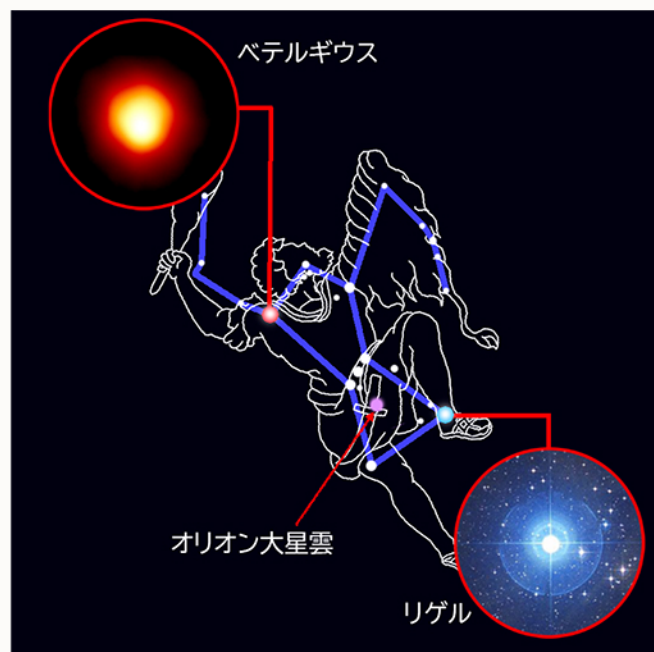
オリオンの腰のあたりに、同じ明るさの三ツ星が整列しており、その周りを囲む四つの星がオリオンの体になっています。また、オリオン座は肉眼でも見ることができる星雲があることでも有名で、三ツ星の下あたりに「オリオン大星雲」を見つけることができます。

さて、そんなオリオン座では赤く輝く「ベテルギウス」と青白く輝く「リゲル」、二つの1等星が目立っています。

この二つの星、日本ではその色合いから平安時代の源平合戦にちなんで、ベテルギウスを平家の赤旗に例えて「平家星」、リゲルを源氏の白旗に見立てて「源氏星」と呼んでいます。

ベテルギウスは、年老いた大きな星で、その直径は太陽の約700倍以上あります。いずれは、超新星爆発を起こして最期を迎えると予測されています。この爆発が起こると、満月ほどの明るさになり、昼間でも見られると考えられています。赤く見えるのは、表面温度が下がり、約3600度程度になっているためです。

リゲルは、エネルギーの高い超高温の星で、その表面温度は約12000度です。比較的若い星ですが、エネルギーの放出が大きいため、あと数千万年で燃え尽きると考えられています。



画像: NASA, ESA

“星のゆりかご”オリオン大星雲

オリオン大星雲は地球からおよそ1400光年離れたところにあるガスや塵の集まりです。オリオン大星雲では多くの星が生まれていて、その中心には「トラペジウム」と呼ばれるオリオン大星雲のエネルギー源である複数の若く重い星が存在しています。これらの星ぼしはとても強い紫外線を放出していて、それを受けて星雲が輝いています。

オリオン大星雲の輝きは星の産声のようです。

そんな産声が遠く離れた私たちまで届いていると考え、星の赤ちゃんのもつ途方もないエネルギーに感動してしまいます。



画像: NASA, HLA